

町長所信 (要旨)

牟岐町創生と役場移転

福井町長

平成26年の『まち・ひと・しごと創生法』制定から3年が過ぎようとしています。地方創生の目的は雇用の増・所得の増・人口の増ですが、最も重要なものは、子どもの数の増加、あるいは維持です。

とであり、将来、日本が存続していくために欠かすことができないものであると信じています。

過疎の町の基幹産業は、農林漁業であり、生産性の低さから後を継げるのは長男だけでしたが、現在は、一次産業の状況が更に悪くなり、跡取りでも家族を養っていくことが難しくなっています。

森林の適正管理、田畑の除草など祖先が当たり前に行って来たことを継続すること、そして、町並みと景観を保全することが、先祖の知恵を後世に残すことであり、今後の町の発展のためにも、極めて重要であると考えています。

一方、都会には都会の、田舎には田舎の個性と役割があります。田舎には、我々の祖先が創り守ってきた町並み・自然景観・地方の文化があります。人間に潤い豊かな自然があります。この地方の文化を残すことは、日本の歴史・文化を残すこ

と考えています。牟岐町を訪れる方々に、牟岐町独自の文化をお伝えし、安らぎを体験していただくことが牟岐町の存在価値であると思います。

さて、去る9月7日、海部病院跡地活用検討委員会(仮称)の設置要望を、816名の方からいただきました。私は、先の選挙公約でも掲げていましたように、海部病院の跡地を役場等に活用すべきであると考えて

いました。それは、地域の活性化はもちろんですが、南海地震が早期に発生するとすれば、現在の役場は耐震性が低く、新しい役場の移転改築までには、場所の選定から竣工までに相当の時間を要し、町職員の安全性を確保するには、海部病院の跡地に移転するしかないと考えたからです。

しかし、財政的な課題や津波の安全性等を重視するご意見もあります。財政的には、旧海部病院が現在の役場の約2倍の広さがあり、多額の管理コストを要します。また、築35年経過しており、今後の突発的な大規模改修が必要となる可能性があります。また、最終的に役場を別の場所に改築すると、再度移転費用が発生します。

ただメリットとして、役場以外の施設が入所し、全館埋まれば、管理コストが下がるだけでなく、入所者の交流により思わぬ化学反応が発生し、地方創生に大いに役立つことが期待されます。また、空調機の交換

とITネットワークの整備を行えば、現役場職員の何割かは即入所可能となり、早期に職員の安全確保を図ることが出来ます。また、施設の老朽化や津波対策として、施設の移転改築を考えている町内外の方には、非常に安く施設整備が出来ると思います。

一方、メリットとして、早期に南海地震が発生するとすれば、海部病院跡地への移転が最善の策であること、旧海部病院は津波避難場所に指定されており、発災時に町職員

が建物内にいれば、スムーズな避難誘導が可能であること、また、近年頻発するゲリラ豪雨に対し、避難場所としての活用が大いに期待されること等が挙げられます。

何れにしても、旧海部病院は、町の中心部に位置することから、空き家として放置し、過疎化の進行を進めることがないよう、町民の皆さんが一丸となり使途を考えていただきたいと思います。



新海部病院屋上から見た牟岐町の風景

が建物内にいれば、スムーズな避難誘導が可能であること、また、近年頻発するゲリラ豪雨に対し、避難場所としての活用が大いに期待されること等が挙げられます。何れにしても、旧海部病院は、町の中心部に位置することから、空き家として放置し、過疎化の進行を進めることがないよう、町民の皆さんが一丸となり使途を考えていただきたいと思います。